

平成 24 年度第 4 回市民協働推進委員会会議概要

- ◎日 時 : 平成 25 年 3 月 31 日 (日) 13:30~17:10
- ◎会 場 : 市役所本庁舎 3 階会議室
- ◎出席委員 : 名和田委員長、浅野副委員長、長谷川委員、寺田委員、木田川委員、宇田川委員、小林委員、渡辺委員
- ◎事務局職員 : 鈴木市民部長、飯塚自治人権推進課長、林田主査、石原主査補、小田主査補、橋本主任主事、高柳主事
- ◎傍聴者 : 1 名

◎議題

- (1) 地域まちづくり事業の評価について
- (2) 市民協働事業 (市民提案型) の評価について
- (3) 市民協働事業 (行政提案型) の評価について

(1) 地域まちづくり事業の評価について

白銀小学校区

委員 :

白銀の場合は学校を中心にし、なにより里山を行っている。里山も核になるので、今後の展開が非常に楽しみ。子供の参加が徐々に増えているというコメントが先ほどあった。ただ、参加者数としてはまだまだ少ない。もっとたくさんあっていいので、子供の参加を意識的に増やしていく企画や努力がいる。傾向としては好ましい。

委員 : 応急手当教室に中学生 19 名が参加。小学生は参加するが、中学生は難しいもの。

これをどんどん進めていただきたい。

里山の方も四ヶ年契約で、今年が完成とのことなので、私も行ってみたい。

18 頁の学習文化部会の文芸講座は今年も 40 名位を予定していたが、4~6 名ということで少ない。講座自体も考慮した方が良いのでは。

委員長 : 中学生というのは重要な着眼点だと思う。

委員 : ふるさと歴史講座、座学はいったん休止ということで、外に出るとのことだが、座学はやめず、予習という形でやるのはどうか。広報誌を誰がどのように配布しているのかというのも疑問に思っている。どういったものが配られているのかも知りたい。

委員長：歴史講座の事業の目的が佐倉をよく知ろうという内容なので、佐倉市の外に出るのであれば事業自体を見直した方が良いと思う。事業の広報などは、まち協の事業だから地区内の多くの人にと言うことなので、自治会やまち協に参加していない人にも配布するという事だと思う。白銀の報告書ではこの点を明確に書いていないが、知りたいところ。

委員：防犯・防災部会のところで、なお津波に関する訓練は新規の工夫が必要と書いてある。白銀に津波の訓練はいらぬ。他の新規の工夫が必要かと。

委員：私はこの地区の近くだが、小学校と中学校で防災リーダーというのを生徒で作っているはず防災体制があるので、そこと自治会と一緒に連携していくようにしていった方が良い。この書き方を見ると、白銀の自治会だけでやっている感じなので、高岡や大蛇も一緒に入っているはずなので、訓練の仕方については広く行った方が良い。給水の面では、東日本大震災では中学校が給水地になっていた。また、里山を公園化するとのことだが、このあたり見通しの悪い斜面なので、防犯の視点を入れていただきたいと思った。

委員長：今の意見を委員会としてやや拡大してとらえた方が良いと感じたのは、次の点である。まち協は小学校区単位としているが、中学生に着眼した取り組みがたくさん見られたのは大変重要。学校の動きとしては、中学校と小学校が連携して動いているはずなので、前委員のように、小中それぞれに防災リーダーがいるとすると、地域の運動もそれに連動するべきだと。

また、25頁のところ、白銀ニュータウン自治会が自主的に行っているところに共催と書いてある。便乗しているだけでも読める。白銀ニュータウンの動きからまち協全体の動きに発展させるという視点が必要だと思う。そういう方向でまとめて良いのであれば、前委員の意見はそうのように展開してとらえても良いと思う。

委員：白銀以外に30名とかいてあるが、年々減少しているということで、他の地区も抱き込むという割には、一地区としても少ない人数。先ほど渡辺委員の意見と関連するが、実績報告書について内容の整理を文面でわかりづらいところもある。付随していかかわからないが、各まち協では広報誌を出しているの、それを参考までに付けていただけると非常にわかりやすい。希望したい。

委員長：白銀に限らず報告書についてご意見があった。一般論として私も読んでいてデータの出る順番がまち協ごとに違って読みづらい。様式の統一という点もある。

委員：出していただいた方が、我々も判断しやすい。各まち協の間でも広報誌の回し合

いをしたらどうか。

委員長：私に関わっている他都市の協働事業でも、参考資料を付けていいことになっている場合が多い。実務的に検討していただきたい。白銀について他に。

委員：予定人数より参加人数が少ないということは、事業をもう少し精査した方が良いと思う。関心の高い事業を整理すべき。人数が少ないのは、まち協が地域のネットワークをうまくつないでいないのではないかという気がする。もう少しつながる必要がある。活動年数の割に参加人数が少ない。

委員長：もう一度事務局に記録を起こしていただき、私と副委員長で確認するという流れにする。それでは次に、ふるさと弥富を愛する会に入る。

委員：いつも弥富の事業内容は楽しそうだと個人的には思っているが、どうも実際に蛍を探しに行ったのだが、弥富公民館に行ってビオトープの場所はどこですかと聞いたら、公民館の人も知らなかった。周りを歩き回って、地元の人に聞いても知らなかった。たぶん、主体になって動いている方が一生懸命やっているとは思いますが、地域の人に広がっていないのではないかという気がしている。それがこの参加人数に表れている。養殖地の清掃など絶対に多くの人でやった方が早いし愛着もわく。3人や5人なので、本当に一部の方でやっていると思う。魅力的なのに残念。たくさんの方が関わられるように。

委員：せせらぎ事業なのだが、毎年20万円掛かっている。5年くらいかかるとのことだが、今後どうなるのか知りたい。カワニナは今回も全滅したとのこと。前回に引き続き二度目。継続ということであれば、全滅させない手立てを考えていただきたい。

委員長：確かに、そのあたりを受け止めた報告書の書き方をしてほしい。カワニナが全滅というのはよくある話だが、それを受けてどうするのかというのを事業内容に書くべき。

委員：昨年度から数十匹の蛍が確認できるとのこと。これが自然現象なのか成果なのかさっぱりわからない。いったい何をしているのかわからない。毎年そういう感じで報告書を読んでいるが、特に今年を読むと、こんな感じでは今後補助するのは・・・という気がしてくる。

委員長：カワニナは普通流水で生きるものでは。

委員：小学校などで人工養殖できる。

委員：弥富は元々蛸がいるところ。しかもお盆の頃になると、結構皆さん迎え盆をする。その風景がすごく日本の昔の風景。そういうものを写真コンテストにするとか、ムードを盛り上げるための施策をとった方がみんなの気持ちが盛り上がるのではないか。是非成功させてほしい。

委員：広報の話と同じになるが、ふるさと弥富を愛する会の中に広報活動というのはあるか？住民に知られていないとの話だが、一番大切なことは、紙を住民に渡すこと。広報活動がどこにも入っていないが、口コミなのか。

事務局：広報誌の発行はない。マップを全戸配布している。

委員：私も木田川委員と同じで、私も伺ったが看板は立っているがなかなかいけない。地元の人でも知らなかった。最初から変わっていない。すごく近隣の人でも知らなかった。良い点では、どんど焼きの人数が増えているとのこと。これは良い。白銀でも出たが、事業がどうしてこれとこれと一緒にするのかというところがある。ゴミゼロと音楽が同じ事業になっている。110番のプレートを購入とあるが、これは学校から依頼があり、学校から送られてくる。これはそれと別なのか気になった。また、健康レシピ講座だが、参加人数がそんなに多くないにもかかわらず、成果品のまとめが、印刷製本費が10万円。これは何部作成してどういう風に配ったか気になった。

委員長：成果物は、費用のかかるものであれば一部回覧などするべき。

委員：健康レシピの活動はうまくいけば地域の健康にも寄与する。いったいどのくらい弥富の家庭に入っているのか、文面からは全然わからない。参加者が少なくともだんだん浸透しているなどの文面がほしかった。また、会計報告が見にくい。

委員長：横浜の社協では、食事会などで使えるレシピ集を作成して売ったことがある。参加人数は少なくとも健康作り運動の拡大につなげるなど、工夫の余地はある。

委員：成果の書き方に問題があると思ったが、外から地域に人を呼び込むというところに特色がある。レンタル自転車の話もなくなってしまっているが、その特色を軸に報告書をまとめてほしい。

委員：音楽講習会に10名参加と書いてあり、それが果たして地域参加の促進に寄与できたかわからない。どういうことをしてどういうつながりができたかわかるような書

き方をしてほしい。

委員：協議会は、全体を整理する意味もあると思うが、いい事業もやっている。なんといっても、地域住民に対する宣伝が足りない。

委員：まちづくりフォーラムでの弥富の報告会の時に弥富から来ていたまち協の人に場所がわかっていないみたいですよ、とメンバーの人に言ったら、まだ作っている最中だからという回答だった。発想が全く違う。みんなで作っていくべき。どんど焼きはいろんな地区の人が主体になってやっているはずなのに、その人たちも来ていなかった。なぜどんど焼きの参加者も全員フォーラムに来て、発表してくれなかったのか。少なくともどんど焼きは多くに人が参加しているから、一緒に盛り上げてほしい。

委員長：では、根郷に移りたい。中学生だけの参加者は何人か。

事務局：今はわからない。

委員：根郷の場合には古村と団地が融合するという意味で、佐倉市の中でも古村と団地が一緒になって行っている地域。まち協のテーマとしてもおもしろい。

委員：根郷まち協の地域は、ふくろうの会と重なるか。

委員：あそこは山王や太田。白銀とは重ならない。

委員：まち協をスタートさせるためにとてもシンプルな立ち上げ方だな、と思った。成果のところの書き方はとてもわかりやすい。言葉できちっと記入している。報告書の書き方を評価したい。事務局の差でしょうか。

委員長：住民からの意見という文言があるか、どのような意見があったか。

事務局：聞いてない。

委員長：まだ2年目ということで、かなり期待の持てる協議会だと思う。しづが原に移りたい。ここは2小学校区でひとつのまち協になっている地域。

委員：質問なのだが、6頁の生活環境事業で、予定がまち協委員と書いてあり、グリーン会議などが書いてある。これはどういうことか。まち協の委員が会議に参加したの

か。

事務局：中志津の有志の方々。まち協の呼びかけで集まった。委員としては入っていない。

委員：11頁の地域交流事業のところ、他のまち協にはない言葉で、障害のある方に目を向けたところを評価したい。

委員長：障害者の方も参加できるようになると裾野が広がる。重要な着眼点。これは2小学校区だが、それで1まち協か。

委員：そうなる。

委員長：では事実上中学校区か。それなら良い。小学校区を越えると空気が違うことが多いが、佐倉は90年代から増えたので、小学校区が広い。中学校に波及するのを期待したい。

委員：14頁の一番下のところに、キャンプは学校関係者が中心だったので、次年度は輪を広げるとのことがだが、どのように広げるのか聞いているか。

委員：ここは他の地域と違った特徴だと思う。

委員：ほのぼのランチは良い。この地域では核家族が多いと思う。独居老人と小学生と一緒に食べている。こういう事業をもっと行った方が良い。地区社協で行っていない場合は、まち協で取り組んでいただけると良い。

委員長：それでは白井について忌憚のない意見をいただきたい。

委員：グラウンドゴルフがニュースポーツになったとのことで、来年もニュースポーツということだったが、どこでもすぐグラウンドゴルフなので、私にとってはうれしい。

委員長：休耕地が多いと書かれているが、耕運機を使って花をいっぱいにするというのはなかなか大変だと思った。中学生への波及効果について具体的にあったら教えてほしい。

事務局：実際に私も見たが、子どもの見守り活動を行っている人たちに対して、小学生はもちろん、多感な時期である中学生たちも恥ずかしがることなく挨拶していたのは、

当たり前のことだがとても良い波及効果だとおもう。

中学の教頭先生の話として、パトロールに中学生も参加させたいという話も来ている。そういうものが根付いてきた感じがする。

委員：私も23頁の花畑推進事業はすごいと思ったが、地域住民の継続的参加が難しいとある。役員の方々は相当疲弊していると思うが、もう少し他の団体との連携を取って、役員だけが疲れているという状況を変えてほしい。

委員：非常に良くやっていると思うし、他のまち協の手本となるようにさらに新しいことに取り組んでほしい。子供たちに企画させ、子供たちに実行させるというプログラムも考えるとおもしろいのでは。今志津でミニ佐倉を行っている。子供が自分で判断して行動するということがある範囲ではできるので、そういうことにもトライしてほしい。

委員長：子供を企画や意思決定の場面にも参加させるというのは割と世界的な流れなので、他の見本としてがんばってほしい。

(2) 市民協働事業（市民提案型）の評価について

委員長：それではまず事務局から一括して説明願う。

事務局：市民提案型、行政提案型をまとめて説明させていただく。

→資料に基づき説明。

委員長：今回も各個毎にやっていきたい。まずはまちづくり支援ネットワーク佐倉について。

委員：収支決算書の、収入のところ、当初計画の中で先進地視察研修が入っていたが、実際には行っていない。やらなかった理由は何か。

事務局：特に聞いていない。こちらの点については団体に確認して報告する。

委員長：先進地を視察しなければいけないような事業でもない。やらなかったとしたらその分事業費総額が減るので、あまり大きな影響は無いと思う。

委員：このプロジェクトに限ったことではないが、目的に対して、どうであったかというものがストレートにまとめられていない。この佐倉支援ネットワークの場合、目的を達成するための数値目標であり手段目標であって、実際には郷土の歴史資産を知って

もらって、いろいろなことに関心をもってもらうという取り組みに対して、参加者がどのような感想を述べていたかというようなことも書いていただかないと、協働事業が本当に意味あるものかどうか分からない。目的に対して、1年間の活動実績がどうであったかというのが出てこないと、協働事業を続けていくべきかどうかの判断ができなくなる。

事務局：そういった観点から評価するというのであれば、文書で表現できない部分もあると思いますので入口のプレゼン同様、出口についても実際に団体に報告していただくことも考えられる。来年度は今一度、当制度趣旨に照らして、書式のことと、報告のやり方等について、ご議論をお願いしたい。

委員長：当初設定した成果の書き方があるが、最初に設定した成果指標が変だから、成果実績もおかしくなっているという点もかなりある。成果指標の立て方も精査する必要があるという点もある。その点については来期の委員会で議論することになると思う。

委員：まちづくり支援ネットワーク佐倉の目的と成果という点で、①と③については成果とは読めない。成果実績の中で、認定合格者を7名出したとある。こういう方を今後実績とあげた以上、どういう風に活躍してもらうのかという視点がこの中では見えない。

委員：認定制度ってしていいのか。しない方がいいのではないかというのを申請時にした。他の団体はガイドボランティアをする資格がないのではという議論をした。それでもその点を無視したのは意外だった。

事務局：当初委員会からの意見として、「団体独自の制度とはいえ、疑義が生じる可能性があるので取扱いについては十分注意してくださいという意見」だったが、団体側からの回答としては、「資格認定制度についてはNPO内独自の範囲内の運用であって、会員以外の人に制度を拡張する予定は全く無い。従って特に問題になることは無いと考えている」という回答だった。

委員：この事業で大ざっぱに初期投資のユニフォームを除いて、見学者にいただくお金などをみると大体やっていける。助成金がなくてもやっていけるのであれば、彼らとしても、自分自身の活動を続けていくために評価していかなければいけないので、当然やっていかなければいけない作業。十分できたか、半分くらいか、そんな程度の評価でいい。彼ら自身がどのような評価をして活動していくのかというのをこの委員会として把握していく必要があると思う。目的・目標に対してどうだったかというコメ

ントを絶対に書いてほしい。

委員長：当初掲げた目的に対してどうだったかが大事。

委員：どんな人が来て、講座に来た方がどういうふうに理解されたか、感想を持たれたのか何もわからない。市民の方に本佐倉城のことをどれだけアピールできてどんな感情を持たれたのかが全然わからないのでそういうことを書いていただかないと成果につながったとはいえない。見学者の年齢なども全然わからない。

委員：目的は本佐倉城を知って佐倉に関心を持ってもらうことだと思うが、外部から来る人は、本佐倉城を目的に来る人はあまりいないと思う。一里塚などもボランティアガイドをしてらっしゃるので、うまくそういうところと連携して本佐倉城に引っ張っていけるようにする活動もこれからの発展のことを考えるとそういったことも視野に入れて活動していただいた方がよい。

委員：申請の段階で、欠席していたので、申請書を持っている。比べてみると、大項目が変わっている。申請の段階のものをそのままかたちに落としていけば、もしかすると成果も書きやすいのでは。この委員会に個別に呼ぶのではなくてフォーラムで報告するというところになったので、細かいことはそういうところで解決できるのではないか。

委員長：では、NPO いんばについて。

委員：成果の報告としては全く同じことがいえる。それは除くと、助成金が一人あたり約2,000円になる。受益者としては、他の団体と比べると図抜けておおきい。事業として本当に良いのかという感じがした。

委員：その観点も一つだが、私は単純に金額。バスの5万円について。申請を通してあるので今さら言うのも何なのだが、バスでどこまで乗せたのか。循環バスや親の車でできたのではないか。このお金があれば屋形船がもう一艘借りられたのでは。バスには何人くらい乗ったのか。

事務局：それはわからない。臼井駅から乗ったということしかわからない。

委員：子どもなら学校行事なんかであの距離歩きますよね。

委員長：委員会として公益性の観点から人数を増やす、イベントを工夫して啓発を増や

してほしいという意見をまとめたと思う。こちらの意見が十分汲んでいただけていなかった。

事務局：参加者の枠を増やす、啓発について。42人を56人に増やした。周知啓発については、事業報告書のスケジュール10月の欄に、千葉県が主催する印旛沼流域環境フェアにおいて、ブースを構え、参加した子供たちを書いてもらった俳句や関連資料を掲載したとのこと。

委員：私も環境のグループにいた時に同じような企画をしたことがある。これだけだと、本当に印旛沼の水質についてどのように考えられたとか、水草の保全方法まで踏み込めたのか成果としてわからない。もっと屋形船というツールを使って、沼を見たりもするが、もう一步参加した人たちが、見たり聞いたりしたことをどういうふうに印旛沼に対して自分たちで何ができるかということを考える場所をもうけるべき。見に行っただけで終わっては本当の活動の目的にはならないのではないかと。俳句を作ったの表彰だけでは、効果が薄い。もっと根本的なことから考えていかないと印旛沼はきれいになっていかない。

委員長：報告書の成果の欄に書いてあるのはいわゆる「アウトプット」指標。何人来たからどういう意味があったのかといういわゆる「アウトカム」を本当は成果として書かねばならない。前もって指標として予定・設定されてなければならない。ここが少し工夫されてくれば少し変わってくるだろう。

委員：助成期間が終わった時に、その事業がどうなっているのかが重要な観点だと思う。一人2千円ということは無くなったからできませんよとなったら、3年間なんだったのとなるんですね。やっぱり無くなってもいけるその助走期間として市から3年間の半額補助をもらうわけですので、その後継続できるかの観点からの見方というのが必要な。

委員：継続という意味では、参加者が57人にて、スタッフが18人。次年度やるにしても一回やった人が18人はいることになる。参加者の中身がよく見えない。目的や成果にどういう風に反映するかにも関わる。一般参加者が少ない。

委員長：何を目的として何をやるかという成果の欄の書き方を申請する側も工夫すると変わってくる。では、こどもの明日プロジェクトについて。

委員：これは何年目の事業か。

事務局：3年目になりますので今年度で終わり。

委員：文化活動を助成していくことを行政がするのであれば、抽選か審査かわからないが、公平にするのが良いと思う。市民提案型ということで出てきているが、実際は舞台を助成金でやっていきたいということ。3年間見てきて。今までもこの団体は元々子どもステーションでずっとやってきている。お金がなくて助成してほしいということが出てきた感じ。成果や実績も、満足度だけで何に満足したのかというのが全く見えない。報告書の内容も痛々しい面がある。これは市民協働でやった方が良いのか。文化課などから補助した方が良いのではという気がしました。

委員長：この意見は審査の時にも出ていた。

委員：この組織がどんな活動をしていくのか興味がある。今まで3年間が終わった事業団体のその後がどうなったかを、ヒアリングしていく必要があるのかなと思う。1行か2行で良いと思うので、引き続きやっているとかやめちゃったとか。やっぱり助成金を使った成果だとか、どのように生かされているか把握していく必要がある。毎年度末に過去の団体の状況とまとめるだとか必要だと思う。

委員：これに関しては次に11月3日に劇団ドラのハンナのカバンというのをやると聞いております。ただ助成金が無くなってくるので、一人親の家庭の人たちとかそういう人をどこまで呼べるのかわからないと思います。

委員：この事業は、初年度は市民に広く観劇する機会がないということで単に自分たちのサークルにお金がほしいという申請があったんですけども、こちらからのアドバイスで、少し方向に修正が利いて、各学校にアンケート調査をしたり自分たちの持っている情報を流したりという方向で、少しでも子どもたちに文化的なものを広めたいという活動が少し公益に近いものになってきているような感じがするので、この委員会からのアドバイスでこういう方向に行ったことはこの団体が成長するきっかけになったとは思っています。学校とつながるきっかけにはなったと思います。

委員長：似た団体が横浜にもあってずっと活動しておられて、今は比較的安定した助成の枠組みのもとで活動している世界的に見てもこの種類の活動は助成金がないと成り立たない。何か良い援助の仕方が文化活動に対してあればなあと思っております。この枠組みで助成されて3年間やって終わったのがどうなるかというのは気になる点だが、という意見について、横浜で補助した団体の話を聞くと、結構苦労しておられる。我々も聞く機会をもって現在の制度を運用していくというのが重要で、負担の無いかたちでまさに情報を得ることが大事。活動報告会に来ていただいて意見を聞くな

ど。では、重症児者の普通に生きるを考えるプロジェクトについて。

委員：事務局への要望なのだが、普通に生きるプロジェクトというのはNPOクローバーの会ですね。クローバーの会が要請して市内に重心の施設がこの7月にできるが、たまたま内郷地区にできる。この映画を上映する段階で、そんな施設ができるのは全然知らなかった。NPOクローバーの広報の仕方もまずかったが、内郷地区にできるという切実なことが決まった段階で、地域にも関心が生まれた。実はまたクローバーの会が別の助成を受けたこともあってまたDVDを借りられ、内郷地区でも上映会を開くことになった。どうやって広報しようとなった時に、こんな地味な映画、広報しても誰も集まらないので、関心のある民児協などに配った。それに対して、クローバーの会はとても驚いていた。そういった育ちきっていない団体に対して、せっきくサポートセンターがあるので広報などの面でも、事務局にはサポートしていただきたい。

委員長：申請時にも同じ意見が出た。そういう面が弱い団体の活動が弱まってしまふのは残念。良いことやっている地道な団体に新しいスキルや考え方を啓発する意味でもこの事業は大事だと思う。

委員：まちづくりフォーラムでの発表の仕方がわからないといわれたので、サポセンに聞いてみたらと言ったら、サポートセンターが相談にのってくれるのですかと驚いていた。せっきくある市の資源なので。

委員：相談事業がすごく大事なのに、みんな知らない。もっとサポセンが中間支援組織だということをアピールしないと、みんなが活用していかない。

委員：チラシはたまに届くが、相談の日以外の日はだめなのかと思ってしまう。

委員：どんどん聞いていくべきだと思う。

委員長：市民間のネットワークの中で育てられていくようにしていただきたい。

委員：PTAの役員をしていたので、映画を生徒に見せたいと言うことで教頭に相談したが、私たちが見ていないものを生徒に見せられないとのことだった。なので、そういう人たちが見ることのできる試写会を開催してはいかが。

委員長：団体自身がそういうことが考えられるような団体になっていかなければならない。佐倉ラボについて。ページビューが目標値以下だったのに、成果の記述が、辻褃が合わない。数値以下なのにもかかわらず、多く来ていることを知った、というのは

おかしい。

委員：申請時の意見もそうだったが、配布したのが遅かったと思う。夏休みぎりぎりの時期。情報がきちんと使われたのか疑問。作ったよ、配ったよで終わってしまっている。次年度どうするかわからないが、イベントがあるのであればもっと早く流してほしい。

委員長：成果指標もアウトカム指標になっていない。

委員：イベントの度に配布されるアンケート調査して、生かすという項目は大事な項目だと思うのだが、できなかったと言うことで終わっている。

委員：これは今言うことではないが、夏休みのイベントを紹介するのは誰のためなのか？団体のためなのか、子育て中の家族のためなのか。子育て中の家族のためなら、掲載基準が必要だと思うし、目的がよくわからない。

委員：鳥海さんからは、好評だったとは聞いた。どのようにかはわからない。

委員：いきたいけど、情報が無い、来てほしいけど、資金がないと書いてあるので、両方のためではないか。

委員長：全体にいえることだが、真の成果となるようなアウトカム指標になっていない。NPO 法人ワーカーズコレクティブ風車について。

委員：申請の時にもお願いしたが、毎月、押花、卓球とか、ものづくりをしているが、その際の謝礼金が42万7900円にもなっている。講師に対しての謝礼がかなりの金額になっている。それに対して、押花とかお菓子づくりとかは本来地域の中でできる方がたくさんいると思う。そういう地域の方を巻き込んでやるのが大事だと申請の時に言っていたはずだが、収支決算を見るとそれが全然うかがえないのでちょっと残念である。

委員：同感。何をやっているのかどういう人が参加しているのかわからない。いずれにしても謝礼金一万円は高いし。たぶんさがしたら地域の中に十分できる人がいると思います。

委員長：その辺のことについて団体の方は何か言っていたか。

事務局：その点については聞いていないが。

委員長：県の補助が切れたので、市との協働事業でということで事業者感覚だった。それは良いことなのだが、ボランティア精神というよりは事業者感覚であってこの事業の趣旨とは違う。

委員：通信費で、講師との電話代が1,000円で11回。随分長電話。もうちょっと書き方もあると思う。

委員：事業報告書を見ていて、実績でいろいろな事業をやっている。あの場所でこれだけのことを毎回この人数で現実にできているのか。

委員：私もそう思った。

委員：居場所作りをするという事業自体は皆否定しない。ただ、居場所づくりをすためになんか企画するのかというのが疑問。企画をして後付でお金がついてくるという部分もあるし、風車自体が居場所作りと平行して、自分たちの事業としてリユース食器の貸し出しなどがあるので、利用者と仕事をしている人がもしかすると混じりあって会計が一緒になってしまっているのではないか。

委員：視察に行ったときも、リユース食器事業が忙しくて相談事業ができていないと言っていた。

委員：相談はできていませんと。

委員長：われわれもこの事業を審査する時にもっといろいろと言うべきだったと思う。

委員：何もなくてもお茶を飲んでおしゃべりをするだけでいい

委員：こんなにいっぱい事業をやらなくていい

(3) 市民協働事業（行政提案型）の評価について

委員：現場を見させていただき、事業自体はとても良いと思う。その際注文としてあの場所にベンチでも置けばお年寄りや近所の人が休憩できるのではないかという意見があった。横断歩道を作って自由に入れるようにすれば良いのではないか、という意見が出ていたと思うが。

事務局：この事業の目的は、JR佐倉駅の乗降客などに対して、駅前のガーデン、花をとおして、花のまち佐倉をPRする、おもてなしの心を表現するというのが目的です。

委員：とても考えて設計されているようですし、産業振興課も満足していたようだったので、事業としては成功だったのではないかと思います。

委員：今後どうするのか？

事務局：来年度も維持管理を通して継続していくと聞いている。

委員：あまり市民協働と言うことが伝わらない。今後、産業振興課の予算でやるにしても、市民協働のPRをしていただいた方が良い。

事務局：具体的に市民の皆様にはPRしていくという点ということであれば、看板等の設置含め、担当課に委員会意見として申し伝えさせていただく。

委員：駅からハイキングというのが今流行っている。駅の上から見てはっとする、おもてなしの心がわかるので、そういう意味では今後も続けてもらいたい。

委員：トータル的な話ですが、事業の成果の最後に、次年度以降はこうしたいという抱負や反省を踏まえて来期のことも書いてほしいと思った。

委員長：様式の工夫を事務局にもお願いしたい。

事務局：市民提案型の募集はすでに行っているもので、申請様式は変えられない状況です。ただし、実績については改善することも可能です。

委員長：それではこれでよろしいか。以上で時間になったので、皆様からいただいた意見を事務局でとりまとめものを、最後に私と副委員長で意見書として市に提出する。事務局には各事業実施団体に意見をお伝えいただきたい。以上で議事部分は終了。

委員長：議事録署名人は、宇田川委員にお願いする。

4. その他

事務局：平成25年度第1回委員会の日時は

委員長：一番挙手の多い、4月29日の午前中とさせていただきます。

皆様お疲れ様でした。退任される委員に一言ずついただきたい。

委員：お世話になりました。木田川委員と一緒に公募で入ったのだが、何もわからずに入って、ここで知ったこと、知り合った人はこれからの財産になると思う。ありがとうございました。

委員：生意気で皆さんにはご迷惑をおかけしたが、自分が審査を受ける立場の人間でここに参加させていただき、とても勉強になった。ありがとうございました。

委員：この委員会では大変勉強させていただいた成果ですが、この前来ていただいたふれあい喫茶店は、千葉県助成金をいただいたのだが、5分のプレゼンだった。こちらでのプレゼンを聞き、おかげで当日はほぼ5分で簡潔にプレゼンすることができた。いろいろとお世話になりました。

平成25年4月16日（火）

委員長	名和田	是彦
副委員長	浅野	訓子
議事録署名人	宇田川	光三